

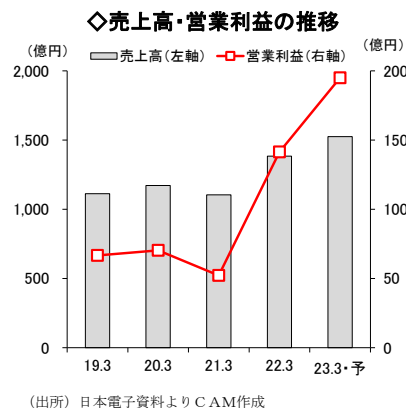
企業ニュース 日本電子

(東証プライム : 6951) <https://www.jeol.co.jp>

作成者:村上大志

総合理科学機器メーカー

電子顕微鏡の開発・製造から始まり、現在ではナノテクノロジーの研究に必要な様々な機器の開発・製造を手掛ける総合理科学機器メーカー。理科学・計測機器、産業機器、医用機器の3事業を展開。理科学・計測機器では、電子顕微鏡のほか、物質の構造を内部から分析する核磁気共鳴装置などの開発・製造を行う。利益の約7割を稼ぐ産業機器では半導体製造工程の1つであるフォトマスクに回路パターンを描く電子ビーム描画装置を、医用機器では血液などに含まれる各種成分を測定する生化学自動分析装置などを手掛けている。新中期経営計画(23.3~25.3期)では、売上高1,700億円、営業利益240億円などを目指す。22.3期のセグメント別構成比(売上高・営業利益)は理科学・計測機器(61%・25%)、産業機器(25%・69%)、医用機器(14%・6%)。



売上高、営業利益ともに過去最高、引き続き半導体向けが好調

22.3期の連結業績は売上高が1,384億円、前期比25%増、営業利益が141億円、同171%増。全セグメントで増収増益となり、売上高、営業利益ともに過去最高を更新。また、中期経営計画の数値目標も達成した。セグメント別では、電子ビーム描画装置の需要が拡大した産業機器が業績をけん引。理科学・計測機器では、半導体の微細化・複雑化に伴い電子顕微鏡の受注が活況、医用機器では、新型コロナウイルス感染拡大で免疫分析装置が好調だった。受注残高は同54%増の936億円と大幅に増加、理科学・計測機器や産業機器が好調だった。

23.3期の会社計画は売上高が1,525億円、前期比10%増、営業利益が195億円、同38%増。上期は部材ひっ迫の影響を織り込んでおり、売上高は下期偏重(上期:612億円、下期:913億円)の計画。業績をけん引している産業機器では、電子ビーム描画装置の需要は旺盛な状況が続いている。また、2021年10月より稼働を開始した新工場での生産は順調に推移している。理科学・計測機器では、能力が大幅に改善した生体分子用のクライオ電子顕微鏡の引き合いが創薬向けで強まっており、シェアアップが期待される。

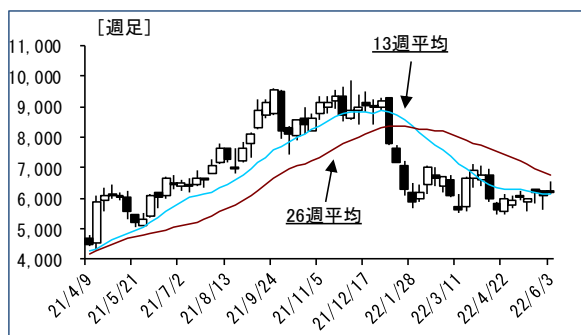
[株価動向・投資判断]

半導体や創薬向けを中心に需要は好調で、高い利益成長が期待できよう。

<6951 日電子 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	110,439 (▲6)	5,224 (▲26)	6,550 (▲9)	3,745 (▲30)	77.5	24.00
22.3	138,408 (25)	14,144 (171)	16,313 (149)	12,278 (228)	246.8	50.00
23.3 予	152,500 (10)	19,500 (38)	18,800 (15)	13,700 (12)	275.3	60.00



[主要株価指標] (売買単位:100株)	
株価(2022/6/3)	6,240円
年初来高値(高値日)	9,310円(22/1/4)
同 安値(安値日)	5,450円(22/4/18)
予想P E R(23.3予)	22.7倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,684.1円
P B R	3.71倍
予想配当利回り	0.96%
(1株当たり配当金年60.00円)	
R O E(22.3)	17.9%
発行済み株式数	5,153万株